

# MSIG Quarterly Report

三井住友海上グループホールディングス株式会社

広報部 〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 TEL:03-3297-6480(代表) <http://www.msig.com>

2008年7月18日

2008年度第1四半期(4~6月)の三井住友海上グループのトピックスをご案内します。

## 1. 営業概況(2008年4~6月、速報ベース、傷害・一般計には長期医療を含む)

三井住友海上社(単体)の第1四半期は、2008年4月からの自賠責保険の料率改定の影響等で、一般計で前期比4.6%の減収となりました。

(金額単位:百万円)

種目名	第1四半期(4~6月)	
	収入保険料	増収率(%)
自動車	144,245	2.1
自賠責	30,998	26.5
火災	50,872	1.8
傷害	28,685	3.0
新種	52,677	1.4
貨物	18,673	1.9
船舶	10,965	1.5
一般計	337,115	4.6

## 2. 主なニュースリリース(2008年4~6月) カッコ内はニュースリリースの日付

### (1) 業務改善計画

#### 業務改善計画の実施状況について(4月21日)

三井住友海上社は、第15回の業務改善計画実施状況の報告を金融庁に提出しました。ガバナンス、保険金支払管理態勢の改善・強化についてなどを報告しました。その他、社員・代理店に対するコンプライアンス教育の強化、お客さま基点推進諮問会議の開催について報告しました。

### (2) 国内損保事業

#### Webサイト上で新たなお客さまサービスを開始(4月25日)

三井ダイレクト社は、5月22日から、Webサイト上での新たなお客さまサービスとして、気軽

に自動車の運転適性をチェックできる「運転適性eチェック」と同社の指定修理工場を地図で検索できる「指定修理工場eMAP」の2つのサービスを開始しました。「運転適性eチェック」は、安全運転に必要とされる瞬間的な「状況把握力」「記憶力」「反応力」などが診断でき、不得手な分野を自覚し交通事故未然防止に役立っていただくことを目的としています。「指定修理工場eMAP」は、同社が全国に展開する約550カ所の指定修理工場の検索ツールとして用意したもので、住所、郵便番号、工場名などから最寄の指定修理工場が検索可能です。

### (3) 生保事業

#### 関西支社を開設(4月25日)

三井住友海上メットライフ生命社は、5月1日に本社機能を東京都中央区の八重洲ファーストフィナンシャルビルに移転するとともに、5月7日には西日本の営業拠点として、大阪市中央区の淀屋橋三井ビルディングに関西支社を開設しました。この関西支社内には、代理店トレーニングセンターを併設しており、今後は、既に東京で開設しているトレーニングセンターとの2カ所で、代理店向け教育・研修をより充実させていきます。

#### ゆうちょ銀行と郵便局会社において、

#### 変額個人年金保険「しあわせ定期便」の販売を開始(5月13日)

三井住友海上メットライフ生命社は、5月29日からゆうちょ銀行、郵便局会社で販売が開始された変額個人年金保険4商品のひとつに同社の「しあわせ定期便」が採用されました。「早期受取り型」に分類される商品で“すぐに、ずっと受け取れる”変額個人年金保険です。ゆうちょ銀行82カ所、郵便局79カ所の合計161カ所で販売が開始され、順調なスタートを切りました。また、変額年金マーケットへの郵政の新規参入により、その認知度が高まり、今後更にマーケットの裾野が広がっていくことが期待されます。

#### 2008年3月期決算において、保有契約件数・保有契約高ともに増加(5月21日)

三井住友海上メットライフ生命社は、2007年度は、世界的な投資環境の悪化が銀行窓販市場にもネガティブな影響を及ぼし、資産運用収益は市場全体で前年を下回る結果となりました。そうした中、同社は、積極的な販売に取り組んだ結果、2008年3月期決算で保険料収入は6,446億円(前期比93%)、保有契約件数が275,611件と前年比26.6%の増加となりました。また、保有契約高が2兆5,278億円と前年比9.3%の増加となりました。

### (4) 金融サービス、リスク関連事業

#### 「BCM(事業継続マネジメント)総合コンフェレンス」を開催(4月10日)

三井住友海上社のグループ会社であるインターリスク総研は、株式会社IDGジャパンと共同で日本最大規模のBCM(事業継続マネジメント)総合コンフェレンス「Business Continuity Management Conference 2008」を4月22日に開催しました。BCMは第三者認証制度が世界的に普及しつつあり、日本の産業界にとって、これらの動向把握は、極めて重要になります。BCM総合コンフェレンスでは、20社を超える参加企業によるセミナーを通じて、BCMの国際化最新動向など各種テーマについて解説・提言を行いました。

### 事業継続に関する第三者認証取得コンサルティングを開始（4月24日）

三井住友海上社のグループ会社であるインターリスク総研は、事業継続マネジメントシステム（BCMS）に関する第三者認証取得コンサルティングを5月1日から開始しました。本コンサルティングは、世界的に関心が高まっている事業継続マネジメントの認証取得に対応するもので、国内で唯一認証審査会社向けに審査員を派遣するインターリスク総研のノウハウを活かしたコンサルティングサービスです。海外事業を展開する企業などを中心にサービスを提供していきます。

### ドライブレコーダーを活用した自動車事故防止対策コンサルティング

#### 「ドラレコ活用パック」の提供を開始（5月16日）

三井住友海上社のグループ会社であるインターリスク総研は、多機能型ドライブレコーダー（カメラ付き）とデータ解析用パソコンを活用した自動車事故防止対策のコンサルティングメニュー「ドラレコ活用パック」の提供を開始しました。メニューでは、ドライブレコーダーと同時に「データ解析用パソコン」を貸与し、運転データに基づいた運転者の日常指導・管理の徹底を図ることで、より高い効果が期待できます。本コンサルティングは、事業規模の大小を問わず全業種を対象とし、コンサルティング料金は、基本パッケージで30万円となります。

## **（5）環境・社会貢献活動**

### 子どもたちの夢・未来の地球を描こう！

#### 2008年チャリティカードのために子どもの絵を募集（4月10日）

三井住友海上社と特定非営利活動法人 子供地球基金は、広く募集した子どもの絵から数点を選び、チャリティカードにして販売を行い、その収益金で世界の紛争・被災地域の子どもたちを支援しています。今回の取組みは、当社グループ社員による社会貢献団体「スマイルハートクラブ」と子供地球基金が1992年より協働事業として行ってきたチャリティカード事業の一環として行うもので、子どもたちが絵を描くことで、“Kids Helping Kids”～子どもたちが子どもたちを救う～をテーマとした活動へとつながっています。また、東京ミッドタウン（4月18日～24日）にて開催された子供地球基金創立20周年記念イベント『子どもたちの絵で地球を塗りかえよう』の会場でも、特設お絵描きコーナーを設けて絵を募集しました。

### ミャンマー・サイクロンおよび中国・四川大地震の

#### 被災者に対する義援金寄贈について（5月23日）

三井住友海上グループは、被災者、被災地の支援を目的として、国内外の社員およびアジア他各国のグループ会社から義援金を募り、総額2,300万円規模の義援金を国内外の被災国義援金寄付窓口を通じ寄贈を行いました。義援金は、当社グループの社内募金制度（災害時義援金マッチングギフト制度）により、社員からの義援金額に対し同額を会社側が拠出しました。

< 義援金の内訳 >

当社グループの社員の義援金	：	約1,000万円
災害時義援金マッチングギフト	：	約1,000万円
海外各現地法人	：	約 300万円
合計	：	約2,300万円

## 社会貢献の一環として「TABLE FOR TWO」活動に参加／

### 社員食堂でヘルシーメニューを食べて、開発途上国の給食費に（6月16日）

三井住友海上社は、同社駿河台ビル（千代田区神田駿河台）の社員食堂において「TABLE FOR TWO」活動を開始しました。先進国では「太りすぎ」、開発途上国では「飢餓や栄養不足」が大きな社会問題となっています。本活動では、私たちが低カロリーの昼食を取ることで自らの健康維持を促進し、同時にその代金の一部を開発途上国へ寄付します。気軽に健康維持と社会貢献ができることから、今後、駿河台ビル以外の社員食堂にも広げていく予定です。

### 岩手・宮城内陸地震の被災者に対する義援金等寄贈について（6月24日）

三井住友海上グループは、被災者、被災地の支援を目的として、グループの社員から義援金を募り、約325万円の義援金が集まりました。義援金は、当社グループの社内募金制度（災害時義援金マッチングギフト制度）により、社員からの義援金額に対し同額を会社側が拠出し、総額で650万円規模の寄贈を岩手県、宮城県の義援金窓口を通じて行いました。なお、地震発生当日にはタオルや飲料水といったお見舞品を手配し、翌日以降、被害が発生したお客さまへ手交しました。

< 義援金の内訳 >

当社グループの社員の義援金	:	約325万円
災害時義援金マッチングギフト	:	約325万円
合計	:	約650万円

## (6) その他

### 代理店CMと新商品ブランドCMを放映しました（4月14日）

三井住友海上社は、代理店の姿を描いた代理店CMと新商品ブランド「GK」CMをそれぞれ放映しました。代理店CMでは、「守りのプロ」として、「J2クラブで活躍しているゴールキーパーの本田征治選手にご出演いただきました。代理店の活動で、普段は目に見えない部分にスポットを当てることで、当社代理店が努力を欠かさない「保険のプロ」であることを表現しました。また、商品ブランドCMでは、堀北真希さんがゴールキーパーに扮し、個人のお客さまを取り巻くさまざまなリスクから守る当社商品の力強さをアピールしました。

### 新商品「GK クルマの保険」CMを放映しました（5月15日）

三井住友海上社は、個人向け商品共通ブランド「GK」の第一弾として5月より販売を開始した自動車保険の新商品「GK クルマの保険」のテレビCMを全国で放映しました。ブランドCMと同様に堀北真希さんがゴールキーパーに扮して登場し、空やハイウェイを縦横無尽に飛び回り、リスク（ボール）からお客さまを守る姿を描くことで、「GK クルマの保険」がお客さまのカーライフの力強い味方であることをアピールしました。

### パートタイマー向け「退職一時金制度」スタート（6月5日）

三井住友海上社は、2008年度より原則全てのパートタイマー（当社呼称：ジョブパートナー）を対象とした「退職一時金制度」を導入しました。本制度により、税法上の扶養範囲内での勤務を希望するジョブパートナーは、時給アップなどに伴う労働時間の削減を行わず安定的な勤務が可能となり、一方、同社は、能力・意欲あるジョブパートナーの確保が可能となります。また、本制度と「正社員への転換制度（2007年10月導入済）」により、個人のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方が選択可能となるため、現在在籍する約3,600名のパート社員の処遇向上を図ることが可能となりました。

### 3. スポーツ・トピックス

#### 財団法人日本サッカー協会とサッカー日本代表チームの

#### サポーターティングカンパニー契約を締結(5月2日)

三井住友海上社は、財団法人日本サッカー協会とサッカー日本代表チームのサポーターティングカンパニー契約を締結しました。今後、国際試合で活躍し私たちに夢と希望を与えてくれる日本代表チームを、サッカーファンの皆さまとともに応援していきます。

#### 女子柔道部

- ・「平成20年度全日本柔道選抜体重別選手権大会」(4月5日、6日)

上野順恵選手(63kg級)が4度目の優勝、山岸絵美選手(48kg級)が2度目の優勝、中村美里選手(52kg級)が初優勝を飾りました。また、横澤由貴選手(52kg級)が準優勝しました。本大会の結果により、上野雅恵選手(代表候補)、中村美里選手が北京オリンピック代表に決定いたしました。

- ・「2008アジア選手権」(4月26日、27日)

上野雅恵選手(70kg級)、山岸絵美選手(48kg級)が優勝しました。女子70kg級については、上野雅恵選手が北京五輪の正式な日本代表選手となりました。

#### 女子陸上競技部

- ・「第92回日本陸上競技選手権大会」(6月26日～29日)

女子10,000mに渋井陽子選手が出場し、大会新記録で優勝しました。本大会の結果から、渋井選手は北京オリンピック・女子10,000mの日本代表に決定し、上野雅恵選手、中村美里選手(以上、女子柔道)、土佐礼子選手(女子マラソン)に続く4人目の北京オリンピック日本代表選手となりました。